

2016年2月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

A ray of light 脳腫瘍と闘う16歳の作曲家 14日(日)



13歳で脳腫瘍を発症した神奈川県鎌倉市の加藤旭さん(16) =写真=は、3歳でピアノを始めると、誰に教わることもなく4歳から作曲を始めていました。「頭の中にメロディーが流れていて、それを書くことが楽しくて仕方なかった。遊びでした」と言います。幼少時に夢中で書きとめた作品は約480曲。昨年5月に27作品を収録したCD「光のこうしん」が発表されると、大きな反響を呼び、編曲されてオーケストラ演奏もされました。小学校高学年以降は勉強や部活動に熱中して作曲から遠ざかっていましたが、14歳で最初の手術を受け、闘病生活を送る中で「音楽で誰かの役に立ちたい」と強く願うようになりました。新たなメロディーが頭の中に流れたのは昨夏。今は「誰かの心に響いたり、何かの役に立ったりすることが曲作りの目標」と話す加藤さんの軌跡を追いました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

日銀が16日から始めるマイナス金利

日々の生活や日本経済にどんな影響があるのか？

夕刊2面特集ワイド 15日(月)



日銀は先月末、金融機関が日銀に預けている当座預金の一部を対象に、金利をマイナスにすることを決めました。企業や個人への貸出金利が連動して下がり、投資や消費を活性化させることが狙いだそうです。「株安円高」に歯止めをかけてアベノミクスを援護することが真の狙いと指摘もありますが、効果は一時的で「株安円高」が急激に進む状況に陥っています。マイナス金利によって、日々の生活や日本経済はどのように変わのでしょうか。専門家とともに考えます。

「西原理恵子と枝元なほみのおかん飯」おんなのしんぶん 14日(日)

個性的なレシピはもちろん、漫才のような二人のやり取りが楽しい「おかん飯」。2月は、西原さんのご家族が続々登場！さらに盛り上がっています。今回は、兄の貴彦さんとお二人とともに、「魚肉ソーセージのコチュジャン炒め」に挑戦しています。枝元さんが「昭和の男前」と評する貴彦さんとの掛け合いを楽しんでください。ニュースサイトにはいつもの通り、動画と写真特集もアップされます！



食・花粉症を和らげる食事

くらしナビ面 16日(火)



花粉症の季節がやってきました。例年より花粉の量は少ないものの、昨年に比べると飛散量は多めという予報が出ています。花粉症を和らげるためには、腸内環境を整えることが必要です。食物繊維と発酵食品を使った「たたきレンコンのもっちりショウガスープ」と「キノコのヨーグルトサラダ」の作り方を、医学博士で管理栄養士の本多京子さんに教えてもらいました。

同性愛者や性同一性障害者などの「LGBT」は、偏見や差別を恐れてカミングアウトできない人が多く、特に職場に明かしている当事者は少ないです。求職時や働く上でさまざまな困難を抱えるLGBTに対し、制度の拡充など積極的に取り組む企業も出てきています。「社員の能力を最大限発揮させることで、会社の利益向上にもつながる」と専門家は強調しています。



企画「春はばたく 第88回センバツ話題校」

16日(火)から8回



第88回選抜高校野球大会(毎日新聞社、日本高校野球連盟主催)開幕まで1カ月余に迫りました。出場する32校の球児は阪神甲子園球場(兵庫県西宮市)で躍動する自身の姿を思い描き最後の調整に余念がありません。県内中学出身者を中心のチームに生まれ変わった青森山田(青森)、ダブルエースで25年ぶりの春の甲子園に臨む東海大甲府(山梨)、昨夏の県大会決勝で逆転負けした雪辱を果たした初出場のいなべ総合(三重)……。夢舞台に立つ話題校8校を紹介します。大会は3月20日に開幕。12日間の熱戦にご期待ください。

快挙! 幻の元素を発見

研究リーダーが明かす「あきらめない」精神

オピニオン面 [そこが聞きたい] 17日(水)

周期表に日本生まれの元素が初めて掲載されることとなります。「113番目の元素」を発見し、アジアで初めて命名権が与えられた理化学研究所チーム。9年間の実験は360兆回に達しました。リーダーを務めた九州大学大学院の森田浩介教授(59)は「待つことが厳しい戦いだった」と振り返ります。苦闘の日々から浮かんでくるのは、人生普遍の価値観のようです。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

一番泣かせた名作

朝刊文化面 20日(土)



長部日出雄さんのエッセー「映画と私の昭和」は、壺井栄原作の木下恵介監督作品「二十四の瞳」(1954年)を論じます。ポイントは、登場する子供たちの成長過程がほとんど本物の兄弟姉妹によって演じられ、12人の名前や性格が観客に一目で分かるように描かれていたこと。他にも大石先生役の高峰秀子の見事な演技など、「日本人を一番泣かせた映画」といわれる名作の秘密に迫ります。

販促宣伝部(電話 03-3212-1241) E-mail: urimono@mainichi.co.jp